

《良いものは、良い心から出ます》

今日の福音(ルカ 6:43 - 49)は、イエス様がおっしゃったとおりに聞けば、その意味がすぐに分かると思います。「蛇足」という言葉がありますが、私の説明はいらないのではないかと思うくらいはつきりと、そして明確に、おっしゃっています。一言一言、皆様もともに読むような気持ちで聞いていただければありがたいと思います。

<福音朗読 ルカによる福音書 6章43 - 49節>

そのとき、イエスは弟子たちに言われた。

「悪い実を結ぶ良い木はなく、また、良い実を結ぶ悪い木はない。木は、それぞれ、その結ぶ実によって分かる。茨からいちじくは採れないし、野ばらからぶどうは集められない。善い人は良いものを入れた心の倉から良いものを出し、悪い人は悪いものを入れた倉から悪いものを出す。人の口は、心からあふれ出ることを語るのである。

わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。わたしのもとに来て、わたしの言葉を聞き、それを行う人が皆、どんな人に似ているかを示そう。それは、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、しっかり建ててあったので、揺り動かすことができなかった。しかし、聞いても行わない者は、土台なしで地面に家を建てた人に似ている。川の水が押し寄せると、家はたちまち倒れ、その壊れ方がひどかった。」

少し黙想をしていただきます。

私たちは時々、自分の状況をよく読みとる必要があります。たとえば、無意識に口から出してしまった言葉をよく振り返ってみる必要があります。それから、人に対する自分の反応もよく読みとる必要があります。それらは、心の状態をよく表しているからです。私たちは時々、なぜこんなに敏感に反応を見せてしまったのか、なぜ腹を立ててしまったのか、と思うことがあります。それらも実際には、心の状態を100%表している結果だと思います。

今日イエス様は、「心からあふれ出しているものが、口から出される」とはっきりおっしゃいました。私も全く同じ気持ちです。皆様も同じだと思います。時々私たちは間違えて、言おうと思っていない言葉が口から出てしまうことがあります。そして、言ってしまうから、「ああこれはひどかった。言わなければよかった。」と後悔をすることがあります。こういうことは、心の状態をよく見ようと努力すれば、何とか修練ができると思います。だから、自分の言葉、自分の行い、自分の感覚的な反応をよく見ようとする心は、信仰者として一番必要な基本的な態度ではないかと思います。

私たちがそのようないろいろな失敗を乗り越えるための唯一の方法は、「祈り」だと思います。「祈り」を通して、み旨を量ろうとする心。そのみ旨の中で、自分がどのような状態にいるかをわきまえることが、何よりも望ましい態度ではないかと思います。

今日の福音をもう一回考えてみましょう。よい心からは必ずよいものが出ます。状態が悪い心からは、よいものを出そうとしてもそれは枯れてしまいます。そして何の影響も与えません。そういう意味で、私たちは、自分から出るいろいろな反応についても責任を取らなければならないことをもう一回考えて見ましょう。

ありがとうございました。